

ひつとべ!



本物。鹿児島県 ~文化維新は黒潮に乗って~

かごしま国文祭

[平成27年10月31日(土)~11月15日(日)]



熱気溢れる練習風景

ストーリーナビゲートキャストの紹介

国民文化祭の総合フェスティバル（開会式・閉会式）では、大会テーマ「本物。鹿児島県〜文化維新は黒潮に乗って〜」に込められた想いを、ストーリー性に満ちた物語によって表現・発信します。

この物語をお芝居や歌、ダンスでリードするのが「ストーリーナビゲートキャスト」で、14人の若者が昨年のオーディションで選ばれました。

開催1年前イベント「プレ国民文化祭・県民文化フェスタ」のステージでスタートラインに立った14人は、現在練習も始まり、本番に向けて熱気も高まっています。

県では、ストーリーナビゲートキャストの奮闘する様子を本番まで追いかけるドキュメンタリー映像を制作しています。この映像は鹿児島キャリアアデザイン専門学校映像科の学生さんが、撮影から編集、ナレーションまで手がけます。

完成した映像は国文祭ホームページで随時配信しますので、ぜひ、ご覧いただき、大会本番に向けて今後ますます練習に励む「ストーリーナビゲートキャスト」の応援をよろしく願います。

● 文弥節人形浄瑠璃の祭典

薩摩川内市では「文弥節人形浄瑠璃の祭典」、「全国はんやの祭典」、「全国まごころ短歌大会」、「薩摩川内こころの川柳大会」、「甌島の生活と文化の祭典」の5つのイベントを開催します。その中の一つ「文弥節人形浄瑠璃の祭典」を紹介します。

文弥節人形浄瑠璃は、17世紀後半に上方（大阪、京都地方）で流行した古浄瑠璃の流派の一つで、俗に「文弥の泣き節」といわれる哀調を帯びた旋律を特色とします。

現在では、石川、新潟、宮崎、鹿児島の

4県のみに保存・継承され、いずれも国の重要無形民俗文化財に指定されています。

鹿児島では、薩摩川内市東郷町に古くから伝わり、神社への奉納や村の祭り、結婚披露宴などで演じられてきました。現在は、東郷文弥節人形浄瑠璃保存会を中心に保存・継承活動が行われています。

同じ文弥節人形浄瑠璃でも、各県によって所作の違いなどがあります。本祭典は、この4県の文弥節人形浄瑠璃保存会が、全国で初めて一堂に会し合同公演を行うこ

〈薩摩川内市実行委員会〉

とで、その違いを見比べて楽しんでいただくとともに、貴重な郷土芸能を全国へ発信する絶好の機会となります。

また、有識者や出演団体の代表者らによる講演やパネルディスカッションでは、保存会の活動状況や保存・継承の苦労話など直に聞くことができ、さまざまな観点から人形浄瑠璃の魅力を感じることができます。

薩摩川内の地で、伝承された哀調を帯びた人形浄瑠璃の演舞を、この機会にぜひご覧ください。



演目「源氏烏帽子折 三段目 鞍馬下りの段」

【お問い合わせ】

県庁生活・文化課
国民文化祭室
☎099 (286) 2863



HITTOBE! KAGOSHIMA KOKUBUNSAI